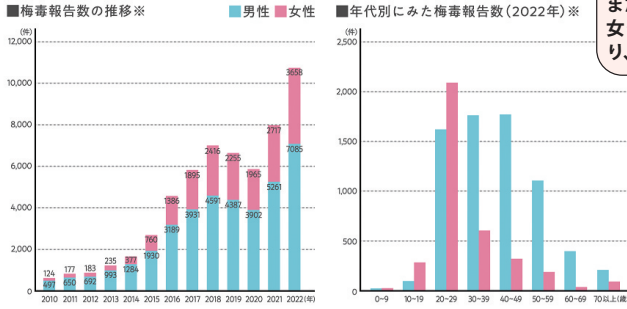


## ■ 感染者増加の現実



※2021年は、第1～52週2022年10月8日時点集計値(暫定値)、2022年は第1～44週2022年11月9日時点集計値の報告を対象。  
 出典：厚生労働省ホームページ 梅毒「梅毒の発生状況について」より([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekakukansenshou/seikansenshou/syphilis.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekakukansenshou/seikansenshou/syphilis.html)) 最終アクセス2023.12)

2022年は、過去最多の感染者数となり危機的状況が続いています。また、男性20代～50代、女性20代が急増しており、危惧されています。



梅毒は 偽装の達人! (The great imitator) という異名もあるピツ いろんな症状があるから、他の病気と間違えられることもあるピツ



## 感染者増加の原因(考えられる背景例)

- ① 性行動の多様化** ネットや SNS の普及で不特定多数との性交渉が増えている
- ② 間違った自己診断** 自分の症状をインターネットで調べ、「梅毒ではない」と間違った自己判断をして受診しない
- ③ 感染を自覚していない** 感染しているのに無症状、症状が軽くて梅毒であることを自覚していない(感染時期から3か月くらいたった頃に初めて症状が出ることもあり、また、出現した症状は人によってさまざま、わかりづらい)
- ④ 医師から処方された薬をきちんと服用していない** 医療機関を受診し、薬物治療を始めるが、最後まで薬を服用せずに、途中でやめてしまう 結果、治療していないのに性交渉をして感染を広げていく

## 梅毒は、気づきにくい! うつしやすい!

受診していない「隠れ梅毒患者さん」もいるみたい…  
梅毒は感染症なので、感染しない・させないために、正しい知識が必要ですよ。



感染するのは性器だけではなく、接触して梅毒トレポネーマが感染したところに症状が出るため、口や喉などにも症状が出ます。

性器じゃないからうつらないでしょ? っていう認識は捨てるピツ!! キスでも感染するピツ…



# 「梅毒」を知って感染を防ごう!

症状が出たり消えたりしながら全身に広がる

監修

千葉原医師会  
岩崎秀昭 医師

今、梅毒が過去最悪のペースで流行していることをご存じでしょうか。2022年の患者数は過去最多だった2021年をさらに上回り、現行法で統計を取り始めて以来、最大の患者数となりました。感染拡大が止まらず、千葉県内においても深刻な問題となっている梅毒。中でも流行の中心となっている若い世代(特に20代女性と20代〜40代男性)の方々は、もはや「身近な病気」と心しておくべき現状です。自分自身と大切な人の体を守るために、梅毒についての認識をアップデートしておきましょう。

### ▼梅毒とは?

梅毒は、性的接触により「梅毒トレポネーマ」という細菌が感染して起こる性感染症です。梅毒トレポネーマは感染している人の体液(精液、膣分泌液、血液、傷口からの浸出液など)に含まれ、口や性器、肛門などの粘膜や皮膚から接触相手の体内に侵入します。感染力が非常に強く、一回の性行為でも高い確率で感染し、オーラルセックス(口腔性交)やアナルセックス(肛門性交)でも感染します。病変が口にあればキスだけでも感染します。

※病変：病気の症状が出ている皮膚や粘膜

## ■梅毒について

### 【症状】

症状は、現れたり消えたりを繰り返しながら長い期間をかけて徐々に進行していきます。

症状が出て、自然に消えてしまうから、治ったと勘違いしてしまうビツ…  
しかも、無症状の期間もあるなんて…  
だから病院にも行かなくて普段通りに生活してしまう人がいるんだビツ…



経過	症状
感染 ~3週間くらい	感染してもすぐには症状が出ない期間
1期 3週間くらい~	感染したところ(性器・肛門・口)に3mmから3cmくらいの痛みのないできものができる → このできものは治療しなくても1か月くらいで自然に消える
2期 3か月くらい~	手のひらや足の裏、体に赤い発疹(丘疹・バラ疹)ができる → 痛くもかゆくもない無症状で、治療をしなくても半年以内に自然に消える
3期 3年くらい~	結節やゴム腫 → ゴムのようなしこりやこぶが皮膚や筋肉、骨などにできてきて、周りの組織を壊す
4期 10年くらい~	心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じる * 全身の血管や神経、臓器が侵され、動脈りゅう・進行まひ(中枢神経系が侵されることで記憶力低下や性格の変化が起こる)・歩行障害(脊髄ろう)・心不全など

梅毒の症状は、時間経過とともに内臓や脳などにも症状が進行していき、失明したり認知症のような症状になることもあります。



感染拡大の原因は、「梅毒の正しい知識がないから」ということもあるかもしれないビツ  
知らないから、きっとこの病気を軽くみちゃうんだビツ



### ⚠️覚えておいて!!

- ▲ 症状がなくなっても、感染力が無くなったわけではない!  
※ できものなどの症状がおさまっても、人にはうつしてしまいます。
- ▲ 完治するまで根気よく治療しなければならぬ!  
※ 医師から「治癒した」と診断されるまで必ず通院してください。
- ▲ 免疫はつかない!
- ▲ アトピー性皮膚炎など、もともと皮膚にトラブルがある場合は、見分けるのに難しいことがある!
- ▲ 唇や口の中、のどにも梅毒の症状が現れることを知らない人が多いため、見逃されやすい!
- ▲ 自然に治ることはない! 何度でも感染するビツ…



### ▼気づきにくいからうつしやすい梅毒の特徴

また、女性が妊娠中に感染して治療せずにいると胎児まで感染して「先天(性)梅毒」という病気をもって産まれたり、流産や死産などにいたる可能性があります。

予防策としては、粘膜の直接の接触を避けられるコンドームの使用が有効です。とはいえ、コンドームで覆われていない部分から感染する可能性があり、確実に防げるものではないことをよく理解しておく必要があります。

梅毒は潜伏期間が長く、感染後間もないと検査しても陰性となり見つけることができません。さらに、「症状が出たり消えたりして無症状の人もいるため、感染に気づきにくい」という厄介な特徴があります。そのため、無自覚のまま人にうつしてしまうことが非常に多い病気です。

症状は、感染部位にできものが現れることから始まります。しかし、このできものには痛みがないうえ、治療しなくても自然に消えてしまいます。

感染後3か月頃には、体に赤い発疹が現れます。この発疹にも痛みや痒みはなく、自然に消えて無症状となります。

問題のない健康体に見える時期をさみながら進行するため、ただの湿疹や口内炎と勘違いし、感染を広げてしまうケースが後を絶ちません。症状が出た部位が性器等の場合、なかなか目にしにくいという点も見逃されやすい理由の一つです。

## 【検査と診断】

何かの症状があり受診した際に、見逃されやすい病気の一つである「梅毒」を、早期に見つけて正しく診断するために必要なことは、まずは、梅毒であるかないかの鑑別検査をすることです。

梅毒の診断は、一般的には、症状の診察や問診と血液検査です。

診察や問診だけでなく、血液検査で血中の抗体を確認することが大切です。



### 梅毒の検査方法

血液検査で、抗体を検出するための血清診断を行います。

- ① RPR 法：非トレポネーマ脂質抗体を測定
- ② TP 抗原法：梅毒トレポネーマ抗体を測定

梅毒の診断はこの2種類の検査方法を組み合わせて行い、その結果から梅毒に感染しているかどうかを、総合的に判断します。

この2つの検査のいいところりをして診断するから、2つの検査が必要なんだビツ



## 【治療効果の判定】

治療効果の判定は、RPR法と梅毒トレポネーマを測定し判断していきます。

(梅毒診療ガイド(第2版), 日本性感染症学会梅毒委員会梅毒診療ガイド作成小委員会(委員長: 荒川創一), 厚生労働科学研究「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」(研究代表者: 三嶋廣繁)  
[http://jssti.umin.jp/pdf/syphilis-medical\\_guide\\_v2.pdf](http://jssti.umin.jp/pdf/syphilis-medical_guide_v2.pdf))

梅毒の治療判定は個々のケースによって異なり複雑なので、医師が「治療終了」と判定するまでは、必ず治療を続けることが大切です。



## ■ 先天(性)梅毒について

妊娠中の女性が梅毒に感染していると、赤ちゃんにまで影響が及びます。気づかずに治療を受けなかった場合は、赤ちゃんが「先天(性)梅毒」(発育不全・難聴など)という病気を持って生まれたり、流産や死産など望まぬ事態となる可能性があります。



妊婦健診をきちんと受けましょう! 妊娠すると妊婦健診の際にチェックしますので、妊婦健診を受けていれば、先天(性)梅毒は防げます。

### 注意!!

- 妊娠中にパートナーから感染し、母子感染のリスクが発生するケースもあります。
- 性行為が一度でもあれば、だれでも感染する可能性はあります。

軽い気持ちでつい...では済まされないビツ!



- パートナー等がいる場合は必ず一緒に検査
- 治療にあたっては、次のポイントが重要です。
  - 治ったように思っても、医師から治療終了と診断されるまでは処方薬を確実に服用し、中断なく治療する。
- 梅毒の治療と注意点
  - ▼ 戦前までは不治の病と恐れられていた梅毒ですが、現代では抗菌薬のペニシリンという特效薬があり、完治が可能な病気となっています。(ペニシリンアレルギーがある人には、別の系統の抗菌薬を用います)
  - 治療は、ペニシリン系の内服薬を服用する方法が一般的です。また、2021年には、早期梅毒であれば1回の注射※(筋肉注射)で治療を完了できる抗菌薬も承認され、選択肢の一つとなりました(どちらの方法でも、治るまでにかかる時間はほぼ同じです)。
  - ※この治療については、すべての医療機関で行われているわけではありません。

また、梅毒の症状は多彩で、一般的な病状とだいぶ異なる症例も珍しくありません。検査を受けず、ネットや友達の情報だけで素人診断することは禁物です。

梅毒は症状の有無にかかわらず人にうつすリスクがあり、自然治癒することはない病気です。治療せずにいると脳や心臓に重大な合併症を発生し、日常生活が困難になるほどの症状まで引き起こします。放置し続けられれば、まれではあるものの死に至ることもあります。

## ■ その他の性感染症

梅毒以外の性感染症も増加傾向にあり、注意が必要です。

梅毒の他にここ10年で感染者が最も多くなったのは、クラミジアと尖圭コンジローマです。

### その他の主な性感染症

病名	潜伏期間	症状(女性)	症状(男性)
性器クラミジア	1週間～3週間程度※1	無症状、おりもの増加、性器のかゆみ、下腹部痛、性交痛 など	無症状、排尿すると痛い・しみる、尿道から乳白色や透明のさらさらした分泌物が出る など
尖圭コンジローマ	3週間～8か月程度 (平均2.8か月)	性器、肛門周辺などに鶏の冠のようなイボができる、自覚症状はほとんどない など	性器、肛門周辺などに鶏の冠のようなイボができる、自覚症状はほとんどない など
淋菌感染症(淋病)	2日～7日程度 (男性性器への感染の場合)	おりもの・下腹部の異常、症状がない場合もある など	排尿時に強い痛み、尿道から膿が出る、精巣のあたりが腫れて熱が出る場合がある、無症状 など
性器ヘルペス	2日～10日程度	感染部位に水ぶくれができ、強く痛む など	感染部位に水ぶくれができ、強く痛む など
トリコモナス症	5日～28日程度	外陰部・膣のかゆみ、おりもの(悪臭)、排尿痛、性交痛、無症状 など	排尿時の痛みや違和感、尿道分泌物、無症状 など

※1 クラミジア性子宮頸管炎、男性クラミジア尿道炎の場合  
上記のほかに、性的接触で感染するカンジタ症・B型肝炎ウイルス性肝炎・HIV感染症などがあります。

これら性感染症の潜伏期間や症状は、あくまでも目安です。「症状が出ないこともある」ということを知っておいてください。

正しい知識と行動で、発見と治療のチャンスを逃さないようにしましょう。

性病科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科などの専門医を受診してください!



を受け、結果次第で一緒に治療を行う。

● 医師から安全と判定されるまでは、感染につながる行為を控える。

● 治療終了後も定期的な検査を続ける。

残念ながら、梅毒は治療可能となったがために「昔の病気」と軽視されたり、「不特定多数と性的接触がある人だけの病気」「自分は関係ないから大丈夫」と思い込んでいる人が少なくないようです。

しかし梅毒は今、急拡大している病気であり、今もワクチンのない病気です。一度感染しても免疫がつかないため、せっかく治療したのに再感染を繰り返す人もいます。さらに、梅毒に感染していると、エイズ(後天性免疫不全症候群)の原因となるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)の感染リスクも高くなっています。

梅毒を心配しつつ、受診をためらう人もいるかもしれませんが、しかし検査を受けることは、つらい不安や健康のピンチから自分を救うことができる大切な機会なのです。正しい知識と行動で、発見と治療のチャンスを逃さないください。

